



此乃短情抄才廿七





九曜文庫





花鳥餘情第廿七

宇治 早蕨

寄生

早蕨

宇治四

秋と詞とをりく春の名と守但方り  
又蕨詞よたけもひとありはるか  
一歳乃まの事あり

しとをりく

カゲラフ

ホニラ

ヒヤク

神系橋下末の柏ありきあそび  
所よの句下れ句なりひきくま

ふり

馬よとてあまのまよひりつ福とあまのまよひり





都あみふらん今をたもてはむしほむと

みらんがけをむらさきとてあはれ

ちとどく日あも今あらはむとみらん

と楽このみる人申う言はずとねい

ふかむし

人の心そり神をちりりりあはれ

我よりほほの中とあつう人の心あはれ

いせののれううをちりりうよみ

ううううう

いせののれううをちりりうよみ

むらむらむらむらむらむらむらむら

むらむらむらむらむらむらむらむら

むらむらむらむらむらむらむらむら

むらむらむらむらむらむらむらむら

むらむらむらむらむらむらむらむら

源氏のうがわり

海くくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくく

うううううううううううううう

と葉字名のうううううううううう











寄生 ヤトリキ

宇治五

海より木ノ歌よわ利ノ詞ノりハ深山ニありや  
 ころころつこの趣とあり海より木と  
 木のわやとつ物とくより新ササキ葉ノ生と  
 ありあり葉ノの木よ生と又楓カエデ樹ノも生  
 するさよわもまゝつ木ノりゝゝ  
 とのあれゑとよりてつらゆとのや  
 つ木ノりありゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 りり女二歳ノ春よその事あり利二月  
 小ナリ虫物ノ決シり任ニ大カ納メをシゝゝシゝシ

寄生 宇治五  
 海より木ノ歌よわ利ノ詞ノりハ深山ニありや  
 ころころつこの趣とあり海より木と  
 木のわやとつ物とくより新葉ノ生と  
 ありあり葉ノの木よ生と又楓樹も生  
 するさよわもまゝつ木ノりゝゝ  
 とのあれゑとよりてつらゆとのや  
 つ木ノりありゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 りり女二歳ノ春よその事あり利二月  
 小虫物ノ決り任大納をシシシシシ



予刺

世のうら若のつとまきこゆの故に若くは若の女御  
しあんなにきこむまゝ東交と来こし  
時人よりたよりしつり給ふ

竹河あるより音右左にたはたはの物さ  
りみえよりけしむよりたれし  
竹つらたは臣とて世の人をれもみ  
す糸島より若つたの女御たはたは修理大  
夫の父とみえあり今とわつた  
下は位つとみ給ふ東交とやま

それゆゑに若くは若の女御が  
の女御は東交の御時よりつり給ふ  
れまよとてつりた二のまゝつりた  
おしりより給ふ

御人のきこひそつりあつた  
おしりより給ふ  
おしりより給ふ

朱権院の女と交と糸院よつり給  
事あそつたふとておしりより給  
おしりより給



おぼしき御心遣ひの御心遣ひ  
御心遣ひの御心遣ひの御心遣ひ  
御心遣ひの御心遣ひの御心遣ひ

御心遣ひの御心遣ひの御心遣ひ  
御心遣ひの御心遣ひの御心遣ひ

朱エヒヤク崔院シの女メ三ミ文フミとト系院ケイの御心遣ひ

今上イマノミヤの女メ二ニは  
中納言ナカノリの御心遣ひ  
御心遣ひの御心遣ひ

御心遣ひの御心遣ひ

御心遣ひの御心遣ひの御心遣ひ

御心遣ひの御心遣ひの御心遣ひ

御心遣ひの御心遣ひの御心遣ひ  
御心遣ひの御心遣ひの御心遣ひ

御心遣ひの御心遣ひの御心遣ひ

御心遣ひの御心遣ひの御心遣ひ  
御心遣ひの御心遣ひの御心遣ひ











をひよるらんたるい水りぬ海か  
舟中らひありまのまかぬい  
る也

昔はまのつらあうこれた、か  
ぬいやあ

夕音キウはあう雲井クモヰノあう  
たはるをそあうはるま

はあらう大納言ダイナゴンはあうい  
おあう

梅アザチ人網アサチ云々中ナカ君キミ奉ホウ之ノ紅梅コウバイ卷マキり

せうはるくやまうとふりまうはる

一今アサチそし梅アサチ大納言ダイナゴンこの時トキ大

はあうれも梅アサチ大納言ダイナゴンといイハはし

時トキより其コノあう中ナカ君キミと思オモひけはる

作サシ之ノ初ハジメ也

海ウミくわはあまうういふのまら思  
らん

二条ニジョウ代ダイひらうれうとらうまう

らうらうあうあうあうあうあう







序

女部送ししをうらむるもよりのことなる  
今葉あはれなるもたつあまの娘を  
あひまきつていりてあまの娘よと母  
らふまのまゝ——未だの名あはれまぢなる  
つりみもつたるあま

あはれまのまぢなるあま

あはれまのまぢなるあま

あはれまのまぢなるあま

あはれまのまぢなるあま

あはれまのまぢなるあま

あはれまのまぢなるあま

あはれまのまぢなるあま

あはれまのまぢなるあま

あはれまのまぢなるあま

あはれまのまぢなるあま

あはれまのまぢなるあま

あはれまのまぢなるあま

あはれまのまぢなるあま  
あはれまのまぢなるあま  
あはれまのまぢなるあま  
あはれまのまぢなるあま



水原ミヅハラ之世ノヨとらじきミ給ル一ツの院ノイけ事コト大

河海カウミ六条院ロクジョウイン道世ドウセイ一ツ行ユク事コトけ初ハジメみ

多オホシり嶋シマ城シロ院イン桂院カウラノ柘ツクシ家カ寺ジ元ノと

今案イマアン成ナリ院イン六条院ロクジョウインと中ナカ院インと也ナリ給

あは二三年ニニシヨウ一ツりのと世ヨとらじき給

い一ツ一ツのわんと六条院ロクジョウインとと一ツせき

人の中ナカ一ツ一ツ末マタ事コトの延ノビ水ミヅの流ナリ一ツ

事コトも同ドウとらじきと一ツとらじき大

お一ツ一ツの時の事コトとらじき人の一ツと

故院コノイ一ツ一ツの上ノウ一ツ一ツの院ノイけ事コト大

の院ノイ一ツ一ツの院ノイ一ツ一ツの院ノイ一ツ一ツの院ノイ

此コノ末マタ事コト一ツ一ツの院ノイ一ツ一ツの院ノイ一ツ一ツの院ノイ

多オホシり水ミヅ原ハラ抄セウか一ツ一ツの院ノイ一ツ一ツの院ノイ

多オホシり河カ海ウミ一ツ一ツの院ノイ一ツ一ツの院ノイ一ツ一ツの院ノイ

多オホシり一ツ一ツの院ノイ一ツ一ツの院ノイ一ツ一ツの院ノイ

け初ハジメみ一ツ一ツの院ノイ一ツ一ツの院ノイ一ツ一ツの院ノイ

一ツ嶋シマ城シロ院イン柘ツクシ家カ寺ジ元ノと

多オホシり一ツ一ツの院ノイ一ツ一ツの院ノイ一ツ一ツの院ノイ

一ツ大オホ覺カク寺ジ一ツ嶋シマ城シロ院イン一ツ一ツの院ノイ



り國史コクシよのせりり貞觀エウケン十八年ハチジウハチネンと清和セイワ  
太后公家キキタガよ養ソウ一海ウミく寺テラよあまれふ  
大覺寺オホカクジよ名ナつぎれりり嵯峨サカ天皇テウ  
昇ノボ庭ニハのりり階カハ庭ニハ不フ板イタ臺ダイ榭シャ亦モ壞ヤブとい  
る事コト國史コクシよのせりり嵯峨サカ天皇テウの  
嵯峨院サカエノイノよ世ヨ成ナリ乃ノ建タテ事コトりりけり事コト一ヒト  
りり六条院ロクジョウノイノの御事ミコトコトよたあゆりさ  
る事コトりりひあまらる事コト一ヒト  
事コト乃ノはあまらる人ヒトいみもをあまらる人ヒト  
これりりお院ノイノよ海ウミくのり六条院ロクジョウノイノ

のり海ウミく人ヒトの事コト也

り海ウミくあまらる事コト一ヒト  
と海ウミくあまらる事コト一ヒト又マタ壹イツ葉エフよと壹イツ葉エフ  
草クサとつりつりそとつりつり葉エフとつりつり  
つりつり也ナリ相遠サウエンあまらる事コト一ヒト  
かのりり一ヒト乃ノはあまらる事コト一ヒトいもさる事コト一ヒトなれり  
ゆりつりあまらる事コト一ヒト  
六条院ロクジョウノイノよ海ウミくのりりちねりりいもさる  
りりあまらる事コト一ヒト  
けり目メあまらるのりりいもさる事コト一ヒト



おまの市<sup>チ</sup>春日<sup>チ</sup>よき

うら<sup>ウラ</sup>のあ<sup>ア</sup>ま<sup>マ</sup>よ<sup>ヨ</sup>ち<sup>チ</sup>あ<sup>ア</sup>ま<sup>マ</sup>よ<sup>ヨ</sup>ち<sup>チ</sup>あ<sup>ア</sup>ま<sup>マ</sup>よ<sup>ヨ</sup>ち<sup>チ</sup>

う<sup>ウ</sup>ひ<sup>ヒ</sup>ろ<sup>ロ</sup>る<sup>ル</sup>ほ<sup>ホ</sup>右<sup>ウチ</sup>京<sup>キョウ</sup>の<sup>ノ</sup>ま<sup>マ</sup>あ<sup>ア</sup>て<sup>テ</sup>

う<sup>ウ</sup>ひ<sup>ヒ</sup>ろ<sup>ロ</sup>別<sup>ヘ</sup>あ<sup>ア</sup>政<sup>シ</sup>所<sup>シヨ</sup>の<sup>ノ</sup>別<sup>ヘ</sup>あ<sup>ア</sup>右<sup>ウチ</sup>京<sup>キョウ</sup>の<sup>ノ</sup>

う<sup>ウ</sup>ま<sup>マ</sup>あ<sup>ア</sup>て<sup>テ</sup>

う<sup>ウ</sup>ま<sup>マ</sup>あ<sup>ア</sup>て<sup>テ</sup>

う<sup>ウ</sup>ま<sup>マ</sup>あ<sup>ア</sup>て<sup>テ</sup>

う<sup>ウ</sup>ま<sup>マ</sup>あ<sup>ア</sup>て<sup>テ</sup>

う<sup>ウ</sup>ま<sup>マ</sup>あ<sup>ア</sup>て<sup>テ</sup>

う<sup>ウ</sup>ま<sup>マ</sup>あ<sup>ア</sup>て<sup>テ</sup>

う<sup>ウ</sup>ま<sup>マ</sup>あ<sup>ア</sup>て<sup>テ</sup>

う<sup>ウ</sup>ま<sup>マ</sup>あ<sup>ア</sup>て<sup>テ</sup>

う<sup>ウ</sup>ま<sup>マ</sup>あ<sup>ア</sup>て<sup>テ</sup>

う<sup>ウ</sup>ま<sup>マ</sup>あ<sup>ア</sup>て<sup>テ</sup>

う<sup>ウ</sup>ま<sup>マ</sup>あ<sup>ア</sup>て<sup>テ</sup>

う<sup>ウ</sup>ま<sup>マ</sup>あ<sup>ア</sup>て<sup>テ</sup>

う<sup>ウ</sup>ま<sup>マ</sup>あ<sup>ア</sup>て<sup>テ</sup>

う<sup>ウ</sup>ま<sup>マ</sup>あ<sup>ア</sup>て<sup>テ</sup>

う<sup>ウ</sup>ま<sup>マ</sup>あ<sup>ア</sup>て<sup>テ</sup>



今案ねをよそ山乃因縁大和物緒よくり

イシコヤニト

くちろふれわり結とをこしそよの月す  
みのりつとよまわらばあしーくれと  
この物しあつこくしつとつとせと  
とそよしつとつとあつこく部よあれ  
とそよしつとつとあつこく部よあれ  
らるしそ又申志の白文しそそれ  
あつこく部よあつこく部よあれ  
推の葉れととつとつとつとつと  
三井つとつとつとつとつとつと

秋の葉あつこく部よあつこく部よあれ

あつあつこく部よあつこく部よあれ

つとつとつと

あつこく部よあつこく部よあれ

あつこく部よあつこく部よあれ

あつこく部よあつこく部よあれ

あつこく部よあつこく部よあれ

白文の位をとりつとつとつとつと  
申志をとりつとつとつとつとつと  
事し



あまのつらきまはるまはるまはるまはるまはるま

<sup>後</sup>せん<sup>後</sup>のふらふらふらふらふらふらふらふらふら

今葉 後朝のふらふらふら<sup>裸</sup>のまきぬ

ふらふらふらふら

あまのつらきまはるまはるまはるまはるまはるま

六巻のまきぬ<sup>むす</sup>のふらふらふらふらふらふら

葉まきぬ

あまのつらきまはるまはるまはるまはるまはるま

ふらふらふらふら

あまのつらきまはるまはるまはるまはるまはるま

あまのつらきまはるまはるまはるまはるまはるま

あまのつらきまはるまはるまはるまはるまはるま

あまのつらきまはるまはるまはるまはるまはるま

あまのつらきまはるまはるまはるまはるまはるま

あまのつらきまはるまはるまはるまはるまはるま

あまのつらきまはるまはるまはるまはるまはるま

あまのつらきまはるまはるまはるまはるまはるま

あまのつらきまはるまはるまはるまはるまはるま

あまのつらきまはるまはるまはるまはるまはるま

あまのつらきまはるまはるまはるまはるまはるま

あまのつらきまはるまはるまはるまはるまはるま



夜詣右恙相坊門家要公中廿四日夜  
更衝深向右相府亭所任之東南對廂東  
以西何設座以朱臺六基及銀器并饌少  
臺一以以樣器并饌菓等安座右其西頭  
南北對設客座主公侍侍女告備饌由即  
出就座九兵來督師尹以右馬門 督師氏  
朝臣相次加座以折敷設饌九少將藤原  
朝臣伊平以盞酒安臺酒巡兩三行而入  
簾中侍女以一盃餅安筥蓋差之主公卒  
客郷起就別也命欽深賜陪從者祿五位

三人白草細長各二領袴一具六位有官散

位四人各同細長二領無官三人白絹各一

疋召繼以下錢二万

今案 女装束、尋常の唐衣木の細長の

貴女恙之者也故、別よとれとゆふ也

三重かまのの唐衣の中倍ありとありや

曹の小腰、川腰や或白或地摺或村濃木

有差異也

出づつと移りまゝの中あり

西宮抄院雜事中御隨身勤夜行召







ありの故姫君とわかれ給ふ名おの我まを  
思ふよと申の君の心入りて給ふ  
百にぞいふもあらはれ給ふてはらへ  
ゆ

おまう御<sup>ナニ</sup>日よきむらじのま  
うらゆら給ふもまはれ給ふてはらへ  
あはれもそれと申君の心入りて  
うらゆら給ふもまはれ給ふてはらへ  
乃行つて申の人君御あはれ給ふ  
あはれもそれと申君の心入りて

のしんせ

一日うたへくまゆりーんうらや  
いふにありうらはれまとなうたへ  
あはれゆら給ふてはらへ給ふま  
もなあり

あはれまのひくまうくわりとま  
ありうらまはれ給ふてはらへ  
あはれまの給ふまはれ給ふてはらへ  
そのひくまもまはれ給ふてはらへ  
あはれまはれ給ふてはらへ







いづれかあつちのうらなひの  
いづれかあつちのうらなひの

あつちのうらなひ

あつちのうらなひ

あつちのうらなひ

あつちのうらなひ

あつちのうらなひ

あつちのうらなひ

あつちのうらなひ

あつちのうらなひ

あつちのうらなひ

あつちのうらなひ

あつちのうらなひ

あつちのうらなひ

あつちのうらなひ

あつちのうらなひ

あつちのうらなひ

あつちのうらなひ



二葉後の世の事

きんこ

なごり

伊國の事

又

か

日

そ

い

ち

水

い

あ

ふ

い

今

事

お

い

ひ



まじりておのれをなまじりし事とあ

まじりておのれをなまじりし事とあ

あまのこころをなまじりし事とあ

あまのこころをなまじりし事とあ

あまのこころをなまじりし事とあ

あまのこころをなまじりし事とあ

ひ

故姫君と一服とでもおたふにかよひ

あまのこころをなまじりし事とあ

あまのこころをなまじりし事とあ

あまのこころをなまじりし事とあ

あまのこころをなまじりし事とあ

故宮の落胤（フタゴ）の女とあ

あまのこころをなまじりし事とあ

あまのこころをなまじりし事とあ

あまのこころをなまじりし事とあ

あまのこころをなまじりし事とあ

あまのこころをなまじりし事とあ

あまのこころをなまじりし事とあ

練（ヒシ）調練（テラヒ）しる事とあ



こゝろのまにあり神

母君のまを人あつとて

人のうへをわいあむとたふふ

故母君の事と思ふ

こころをまをわいあむ

こころをわいあむ

わいあむ

こころをわいあむ

木蛸ツクシ木よつとて

おまの物わいあむ

奉

神のまをの神をまを

こころをわいあむ

あつとて

こころをわいあむ

こころをわいあむ

こころ

まをのまを

こころ

神をわいあむ

こころをわいあむ



よそとくふく

此の中御とていじり

け中御云謂誰人か一尋之

よのこゝろいほふ御志のあてよとていじり

伴海津の舟之監訪調し律也平調

りりきるゆるりりりや鄂曲乃家とら

ぬし

おろてたらのさくはふ

祥候<sup>ハイガ</sup>のり<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>人<sup>カ</sup>い<sup>カ</sup>主人<sup>シユジ</sup>南<sup>ナ</sup>海<sup>カイ</sup>が

そく<sup>ソク</sup>りて<sup>リ</sup>答<sup>コタ</sup>祥<sup>サウ</sup>揖<sup>イッ</sup>讓<sup>ジヤウ</sup>の<sup>ノ</sup>作<sup>サク</sup>は<sup>ハ</sup>あ<sup>ア</sup>る<sup>ル</sup>也

うほろ新大御そのお<sup>ハイガ</sup>賀<sup>ガ</sup>は二条院(ありぬ

ち<sup>ソクタイ</sup>東<sup>トウ</sup>帝<sup>テイ</sup>なる<sup>ル</sup>色<sup>シキ</sup>一<sup>イツ</sup>志<sup>シ</sup>り<sup>リ</sup>よ<sup>ヨ</sup>白<sup>ハク</sup>兵<sup>ヘイ</sup>了<sup>リヤウ</sup>の<sup>ノ</sup>文<sup>モン</sup>

む<sup>ヒタカサ</sup>衣<sup>イ</sup>下<sup>ゲ</sup>敷<sup>シキ</sup>と<sup>ト</sup>着<sup>キ</sup>お<sup>オ</sup>あ<sup>ア</sup>り<sup>リ</sup>さ<sup>サ</sup>き<sup>キ</sup>り

あつし

屋<sup>ヤ</sup>々<sup>々</sup>の<sup>ノ</sup>さ<sup>サ</sup>ら<sup>ラ</sup>く<sup>ク</sup>は<sup>ハ</sup>ふ<sup>フ</sup>あ<sup>ア</sup>る<sup>ル</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>と<sup>ト</sup>ら<sup>ラ</sup>

し<sup>シ</sup>と<sup>ト</sup>ち<sup>チ</sup>り<sup>リ</sup>あ<sup>ア</sup>る<sup>ル</sup>

西<sup>サイ</sup>宮<sup>キウ</sup>抄<sup>シウ</sup>大<sup>ダイ</sup>将<sup>シヤウ</sup>初<sup>シュ</sup>任<sup>ニン</sup>奉<sup>ホウ</sup>除<sup>ジユ</sup>目<sup>メ</sup>早<sup>サイ</sup>大<sup>ダイ</sup>臣<sup>シン</sup>以<sup>イ</sup>下<sup>ゲ</sup>着<sup>キ</sup>

議<sup>ギ</sup>所<sup>ショ</sup>座<sup>ザ</sup>大<sup>ダイ</sup>将<sup>シヤウ</sup>暫<sup>シユン</sup>為<sup>ヒ</sup>於<sup>オ</sup>射<sup>セ</sup>場<sup>チヤウ</sup>殿<sup>テン</sup>合<sup>カフ</sup>奏<sup>ソウ</sup>慶<sup>ケイ</sup>拜<sup>ハイ</sup>拜<sup>ハイ</sup>

了<sup>リヤウ</sup>此<sup>コノ</sup>間<sup>マ</sup>之<sup>ノ</sup>奏<sup>ソウ</sup>渡<sup>ワタリ</sup>南<sup>ナン</sup>階<sup>カイ</sup>前<sup>マヘ</sup>退<sup>タイ</sup>布<sup>フ</sup>之<sup>ノ</sup>間<sup>マ</sup>近<sup>キン</sup>來<sup>ライ</sup>木<sup>キ</sup>

作<sup>サク</sup>庭<sup>テイ</sup>除<sup>ジユ</sup>忽<sup>コト</sup>然<sup>ニ</sup>發<sup>ハツ</sup>物<sup>モノ</sup>等<sup>トウ</sup>撤<sup>テツ</sup>篇<sup>ヘン</sup>放<sup>ハツ</sup>方<sup>ホウ</sup>下<sup>ゲ</sup>時<sup>ジ</sup>卑<sup>ヒ</sup>公<sup>コウ</sup>



郷及次將以下キヤラヨヨヒヒヤウケケイテヨリフ徒敷政門ヒヤウリテイ向里ヒヤウリテイ并ヒヤウリテイ可ヒヤウリテイ也  
以上垣下公郷各着座エヒカノクキヤラ上郷ヒヤウリテイ着外座ヒヤウリテイ先ヒヤウリテイ近ヒヤウリテイ  
侍以下六位官人ヒヤウリテイ於庭前ヒヤウリテイ方舞ヒヤウリテイ託ヒヤウリテイ着庭中ヒヤウリテイ  
座次公ヒヤウリテイ及中ヒヤウリテイ少將ヒヤウリテイ木座ヒヤウリテイ立机ヒヤウリテイ相次ヒヤウリテイ立机ヒヤウリテイ  
食床於庭中ヒヤウリテイ給六位以下ヒヤウリテイ看物ヒヤウリテイ盃ヒヤウリテイ酌ヒヤウリテイ等ヒヤウリテイ  
之後被物ヒヤウリテイ絹ヒヤウリテイ亦各有ヒヤウリテイ着ヒヤウリテイ但新任大將ヒヤウリテイ若在ヒヤウリテイ  
里芽者ヒヤウリテイ可ヒヤウリテイ到其家ヒヤウリテイ飲賭ヒヤウリテイ弓勝ヒヤウリテイ方ヒヤウリテイ饗ヒヤウリテイ食ヒヤウリテイ准ヒヤウリテイ是ヒヤウリテイ  
可知此日ヒヤウリテイ以親王ヒヤウリテイ為垣下ヒヤウリテイ蓋故ヒヤウリテイ實耳ヒヤウリテイ勤物ヒヤウリテイ  
云大將上ヒヤウリテイ鴈ヒヤウリテイ不ヒヤウリテイ来ヒヤウリテイ有親王ヒヤウリテイ大ヒヤウリテイ也ヒヤウリテイ着中將上ヒヤウリテイ  
今案ヒヤウリテイ大初任ヒヤウリテイ乃時ヒヤウリテイ多ヒヤウリテイのヒヤウリテイさヒヤウリテイ中ヒヤウリテイ也ヒヤウリテイ

下とヒヤウリテイ結ヒヤウリテイして大容ヒヤウリテイのヒヤウリテイきヒヤウリテイとヒヤウリテイ以ヒヤウリテイてヒヤウリテイ禄ヒヤウリテイとヒヤウリテイ給ヒヤウリテイ也ヒヤウリテイ  
白告部ヒヤウリテイ口のみヒヤウリテイことヒヤウリテイとヒヤウリテイ饗ヒヤウリテイ亦ヒヤウリテイ清ヒヤウリテイ一ヒヤウリテイ申ヒヤウリテイさヒヤウリテイ也ヒヤウリテイ  
うヒヤウリテイのヒヤウリテイ給ヒヤウリテイふヒヤウリテイらヒヤウリテイうヒヤウリテイんヒヤウリテイあヒヤウリテイらヒヤウリテイりヒヤウリテイ  
多ヒヤウリテイふヒヤウリテイ也ヒヤウリテイ

あヒヤウリテイんヒヤウリテイのヒヤウリテイ給ヒヤウリテイふヒヤウリテイらヒヤウリテイうヒヤウリテイんヒヤウリテイあヒヤウリテイらヒヤウリテイりヒヤウリテイ  
垣下ヒヤウリテイのヒヤウリテイ給ヒヤウリテイふヒヤウリテイらヒヤウリテイうヒヤウリテイんヒヤウリテイあヒヤウリテイらヒヤウリテイりヒヤウリテイ  
下とヒヤウリテイ結ヒヤウリテイして大容ヒヤウリテイのヒヤウリテイきヒヤウリテイとヒヤウリテイ以ヒヤウリテイてヒヤウリテイ禄ヒヤウリテイとヒヤウリテイ給ヒヤウリテイ也ヒヤウリテイ  
より上首ヒヤウリテイのヒヤウリテイらヒヤウリテイ郷ヒヤウリテイにヒヤウリテイじヒヤウリテイうヒヤウリテイらヒヤウリテイもヒヤウリテイ也ヒヤウリテイ親王ヒヤウリテイにヒヤウリテイじヒヤウリテイ  
ふヒヤウリテイらヒヤウリテイのヒヤウリテイ時ヒヤウリテイをヒヤウリテイ給ヒヤウリテイふヒヤウリテイらヒヤウリテイうヒヤウリテイんヒヤウリテイあヒヤウリテイらヒヤウリテイりヒヤウリテイ白ヒヤウリテイ  
まヒヤウリテイもヒヤウリテイ垣下ヒヤウリテイのヒヤウリテイ給ヒヤウリテイふヒヤウリテイらヒヤウリテイうヒヤウリテイんヒヤウリテイあヒヤウリテイらヒヤウリテイりヒヤウリテイ也ヒヤウリテイ



河海ミヨよ新ナニ志シ乃シ倒シらぬつさうしある  
ふわゆるまの垣ヒカ下カといひつへし  
志シといひつへし

らんきみくろあてのせいにしつんま

李部王記天曆四年七月七日是夕女  
沛有産養事一産婦饌衝重十六谷破子食  
七荷屯食八具基手錢二万贈物見衣襪  
襪各五重納支依木右口二合有白使大  
為羞クラン尔守忠傳言云物雖鄙陋今宮所  
贈盖可有フク意報云恩同備至恐喜甚深况

美宮恩命忻恐无極ウク部纏頭白細長一重  
袴一具守忠令ハカシ遣モリ門追傳報賜禄

おひんじつさゝ

李部王死木よみ

まねりせんらのねきまうつま  
てあしつせまふ

粉フニ契キ五穀ゴクと又コ色シよコりて粉コや  
餅モチよコりてゆコりて甘アミ草クサとコりて  
あまの海ウミの筒ツツとて中ナカより  
そくやうウツとてあまの



姿双六乃調度のとまゝある

ふかたスグロク テラフツ ちかた物預 口付の とまゝのあしりまら

の御さふあがみきゆりせ給ふはらうつ

きそふとまら

御うとらびにりある人むしとつておね

まらうとらびのあせしは人のあしりしと

つそせ給うたらいとあやわりのま

峯城皇女潔姫 サカノヒメミヨキヨヒメ 通忠仁公 トヨフキヤミコノ 宇多皇女源朝臣 ミトモトノヤシ

傾子通貞信公 カタコツフステイヒコヨウ 醍醐皇女勤子内親王 タゴトノヒメミヨ

同皇女康子内親王共配右大臣師輔公 ヒノミヨヤスコナイヒコワラトモミヤスモロスヤコラニ

同皇女靖子内親王配大納言友原師成生一 セイシハイムオホコ モロソチキヤウシム

女子詔子内親王配大納言源清蔭卿後配 ニヨシヲノリコ チヨチキヤウシノチニ

河内守橘推風 カハチノカミタチハナムコシヤト 村上皇女保子内親王配 ムラカミノヒメミヨヤスコ

貞信公 テイシニヨウシ 盛子内親王配右大臣顯光公 モリコナイヒコワラハイムマキミツ

今案け為例皆以脱履のち或ハ崩出の イシラフシイミトモワラガク ホウキョ

ちあ人のちよあり給ふゆとと立位乃天子 サイキ テシ

の西女臣下配し給ふ事いふれあつて儀哉乃 アシメヒニカ イ サカカ

皇女潔姫乃あしりあつて儀朝 ヒメミヨキヨヒメ カシテラ

ハ其例もあつて高とて シイ ヒカク

我いよてゆうふめをちりて



これハツノ膏ノ地ノ一條の文は事々ノ終  
ゆへ一條の文ハ事々ノ終  
ゆへ一條の文ハ事々ノ終

まろ若君ハ小ありあり日々

子誕生のちハ事々ノ終

わいとうとふうの日儀式ありて餅

ありあり

あつちしく終らひてまのいふす

事ハ

あつちしく終らひてまのいふす

五月一日ハ事々ノ終

五月の終ハ事々ノ終

あつちしく終らひてまのいふす

あつちしく終らひてまのいふす

あつちしく終らひてまのいふす

西宮記云天曆三年四月十二日於毛香

舎有藤花宴以殿上ハ事々ノ終

南廂東一二三間卷簾

風三帖同廂西中戸東面東一間障子

面立立尺屏風二帖敷信濃廣延中敷

代立御侍ハ南簀子敷同遠月簀子中間



ヨリヒカシキクキヤクノサアツクニセシノナトノミナミテミヤクニヤク  
以東敷登公御座當底中戸南立五尺障  
子其面在御酒具赤深火炉一口有黒漆  
臺同机二前其上在満心瓶令昨金銅抄  
件鳥入御酒銀御銚子一口加土器臺盤  
炭取當公御南前庭敷紫端登四枚其南  
敷二枚敷上人座仰掃部寮令敷軒廊東  
小庭登二行西面北上樂所座末刻御  
召右大臣次諸卿参上次侍臣着座  
小六供御膳具註維時朝臣卒五位六位  
自南庭渡西昇置物御机二基之西座西

椽木作在木蘭地綺敷物卧組木内折敷  
四枚立御机上浅香折敷沈裏以金剛之  
朽葉色唐羅花文綾敷在心葉花内組  
木件組折敷一各四加象牙臺表紫檀裏  
蕨芳在銀筋供膳折敷二枚以椽木  
四種生物下物窪坏以銀作土器  
供了陪膳退下給臣下衛室供御酒銀盃  
維時朝臣供之仔手取銚子給臣下  
二獻銀匙給臣下大臣奏同召樂所別當  
中納言源朝臣有令召承人別當御承人



召之示所糸入奏調子有奇事立文臺

置物御机置石硯紙給臣下獻題

臣奏准延長例地下人一两獻奇召庭燎

月光一獻秋伊予取文臺右兵衛佐清正

講之九少將朝成藏人以雅信朝臣秉燭

地下獻奇者源順友原兼家灌木有時時

方木云講方大臣取石製召公卿侍臣

堪方者奏絲竹大臣納言渡西大臣取御

杖源朝臣取御琴譜進山前奏云進喜御

時四琴譜云源朝臣木稱物名授頭務人

買石机琴お袋彈御兼家被聽昇殿大臣

賜祿細言女裝源氏小註也大臣給御衣

一襲又以女裝給之

みかきういさのみをあけて御しそく

天曆三年記よみ

右のむらあせり乃大納言

天曆三年右大臣師捕公為公卿上首

みかきういさのむらあせり殿上人のまきり

天曆三年南殿藤花下賜近臣座

さうらうてんのいんしんりやの今

さうらうてんのいんしんりやの今











同五年十二月廿日後一条院御百日御堂殿  
給<sup>タテマツ</sup>天盃<sup>テヒ</sup> 以上給<sup>ニ</sup>執政例也<sup>シ</sup>

今案此後万寿元年宁治殿嘉保三年

京極殿賜上皇御盃寛治三年光明寺

寺<sup>ニ</sup>抄<sup>シテ</sup>改<sup>メ</sup> 永徳元年室町奉行幸麻苑院

大相国木給<sup>ニ</sup>之也 為<sup>シテ</sup>後学<sup>ニ</sup>以<sup>テ</sup>次<sup>ニ</sup>書<sup>ス</sup>之

を<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>事<sup>ハ</sup>河<sup>ノ</sup>内<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>儀<sup>ハ</sup>み<sup>カ</sup>し<sup>ト</sup>案<sup>セ</sup>也

と<sup>シ</sup>事<sup>ハ</sup>河<sup>ノ</sup>内<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>儀<sup>ハ</sup>み<sup>カ</sup>し<sup>ト</sup>案<sup>セ</sup>也

せ<sup>ヨ</sup>ら<sup>シ</sup>り<sup>ん</sup>と<sup>シ</sup>事<sup>ハ</sup>河<sup>ノ</sup>内<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>儀<sup>ハ</sup>み<sup>カ</sup>し<sup>ト</sup>案<sup>セ</sup>也

と<sup>シ</sup>事<sup>ハ</sup>河<sup>ノ</sup>内<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>儀<sup>ハ</sup>み<sup>カ</sup>し<sup>ト</sup>案<sup>セ</sup>也

その<sup>ニ</sup>実<sup>ニ</sup>あり<sup>ト</sup>し<sup>テ</sup> 永<sup>ニ</sup>延<sup>ニ</sup>二<sup>ニ</sup>年<sup>ニ</sup>三<sup>ニ</sup>月<sup>ニ</sup>

廿<sup>ニ</sup>五<sup>ニ</sup>日<sup>ニ</sup>小<sup>ニ</sup>右<sup>ニ</sup>記<sup>ニ</sup>云<sup>フ</sup> 抄<sup>ニ</sup>改<sup>ニ</sup>字<sup>ニ</sup>賀<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>左<sup>ニ</sup>右<sup>ニ</sup>記<sup>ニ</sup>

座<sup>ニ</sup>賦<sup>ニ</sup>評<sup>ニ</sup>盃<sup>ニ</sup>右<sup>ニ</sup>大<sup>ニ</sup>臣<sup>ニ</sup>取<sup>ニ</sup>評<sup>ニ</sup>地<sup>ニ</sup>主<sup>ニ</sup>上<sup>ニ</sup>給<sup>ニ</sup>評<sup>ニ</sup>

宣<sup>ニ</sup>於<sup>ニ</sup>抄<sup>ニ</sup>改<sup>ニ</sup>け<sup>ニ</sup>り<sup>テ</sup> 被<sup>ニ</sup>仰<sup>ニ</sup>壽<sup>ニ</sup>言<sup>ニ</sup>一<sup>ニ</sup>千<sup>ニ</sup>秋<sup>ニ</sup>也

以<sup>テ</sup>又<sup>ニ</sup>有<sup>ニ</sup>答<sup>ニ</sup>奏<sup>ニ</sup>云<sup>フ</sup>し<sup>テ</sup> 一<sup>ニ</sup>千<sup>ニ</sup>秋<sup>ニ</sup>被<sup>ニ</sup>抄<sup>ニ</sup>改<sup>ニ</sup>み<sup>テ</sup> 下<sup>ニ</sup>座<sup>ニ</sup>評<sup>ニ</sup>有<sup>ニ</sup>

之<sup>ノ</sup>儀<sup>ハ</sup>と<sup>シ</sup>事<sup>ハ</sup>河<sup>ノ</sup>内<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>儀<sup>ハ</sup>み<sup>カ</sup>し<sup>ト</sup>案<sup>セ</sup>也

之<sup>ノ</sup>儀<sup>ハ</sup>と<sup>シ</sup>事<sup>ハ</sup>河<sup>ノ</sup>内<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>儀<sup>ハ</sup>み<sup>カ</sup>し<sup>ト</sup>案<sup>セ</sup>也

之<sup>ノ</sup>儀<sup>ハ</sup>と<sup>シ</sup>事<sup>ハ</sup>河<sup>ノ</sup>内<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>儀<sup>ハ</sup>み<sup>カ</sup>し<sup>ト</sup>案<sup>セ</sup>也

之<sup>ノ</sup>儀<sup>ハ</sup>と<sup>シ</sup>事<sup>ハ</sup>河<sup>ノ</sup>内<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>儀<sup>ハ</sup>み<sup>カ</sup>し<sup>ト</sup>案<sup>セ</sup>也

之<sup>ノ</sup>儀<sup>ハ</sup>と<sup>シ</sup>事<sup>ハ</sup>河<sup>ノ</sup>内<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>儀<sup>ハ</sup>み<sup>カ</sup>し<sup>ト</sup>案<sup>セ</sup>也







花見作情才すハ

宇治 東屋

東屋 宇治六

詞と秋と成りて書色の名をたけりたる女  
二葉の秋也

瓶取山とよひみどりき渚のありけりかゝるや  
うのちかぢりもさく

ほくろ山ヒタチノシいそぎ陰田よありありわらわら  
常陸前司ヒタチノのちかぢりもさくこれいりたる大  
ねのちかぢりもさく上ヒタチノの春乃来りたるもさく  
みろく







いづれもさうしうの西へもあはれなうら

あゝの海の時も舟の暮の時も

妹いまい今も今もさうしうの海へも

あはれに

あゝのさうしう

あゝの暮し

あゝのさうしうもあはれなうら

あゝの海へも

あゝのさうしうもあはれなうら

あゝのさうしうもあはれなうら

あゝのさうしうもあはれなうら

あゝのさうしうもあはれなうら

あゝのさうしう

あゝのさうしうもあはれなうら

あゝのさうしう

あゝのさうしうもあはれなうら

あゝのさうしうもあはれなうら

あゝのさうしう

あゝのさうしうもあはれなうら

あゝのさうしう







いづれしむ申さるる

いよのき人の御せむい

申の意乃山事

あてしむい人

伊勢物鏡の初

る級一こそあむらささあむり

ホクナセラフ ノ今 (ニ)セヨロミ ス タニセイネリハ (ニ)コニ

小山抄之外信休木任意不常之玉近水

次将常劔上殿之妨仍宿付時別於宿地

村上自餘不特村上

蜻蛉日記馬頭カゲロフノニツキあむらささあむり

ちされいあむらささあむり

一みささあむり

あむらささあむり

うつあむらささあむり

むらささ

うらあむらささあむり

あむらささあむり

今案常陸國は信太浮嶋と云ふありこれ

あむらささあむり

あむらささあむり



いふやうのあついでにゆゑにさういふ

赤地りかん

ヒエリヤラ 史記の書よあついでにゆゑにさういふ

いふ

あついでにゆゑにさういふ

い

みづいづのあついでにゆゑにさういふ

又いづれにゆゑにさういふの意をおぼえ

のさういふにさういふ

いづれにゆゑに

いづれにゆゑにさういふ

あついでにゆゑにさういふを中表

の佛とあついでにゆゑにさういふ

いづれにゆゑに

いづれにゆゑにさういふ

たふ あついでにゆゑにさういふ

いづれにゆゑにさういふ

いづれにゆゑにさういふ

あついでにゆゑにさういふ

いづれにゆゑにさういふ







いふありんかあの中（中）の事（事）はあはれいふん

あつらふとあつらふとあつらふとあつらふとあつらふと

おとせられたるもあはれ神（神）のまゝまゝとあつらふ

清ゆきとのやありきり

心（心）より沐浴（沐浴）しあつらふ

九月（九月）のつとせとあつらふ

あはれいふん十月（十月）のつとせとあつらふ

あつらふとあつらふとあつらふとあつらふとあつらふと

あつらふとあつらふと

あつらふとあつらふと

あつらふとあつらふと

不動（不動）のやう（やう）に急（急）怒（怒）の相（相）とあつらふ

あつらふと

あつらふとあつらふとあつらふとあつらふとあつらふと

常（常）法（法）のまゝと

あつらふとあつらふとあつらふとあつらふとあつらふと

移（移）の鞍（鞍）とあつらふ馬

あつらふとあつらふとあつらふとあつらふとあつらふと

あつらふとあつらふとあつらふとあつらふとあつらふと

あつらふとあつらふとあつらふとあつらふとあつらふと











ねまの湯もくくくく

二条宿とてがねのあや〜とてめらるる事

〜事〜

とてめらるる事〜

ねまの湯もくくくく

〜事〜

〜事〜

母の中柄れきり〜

あや〜めらるる事〜

〜事〜

ちきみ〜

〜事〜

河海とや〜

〜事〜

〜事〜

〜事〜

〜事〜

〜事〜

〜事〜

〜事〜











此のくまをうりきねてお

飛弾ヒコバネの工クラミ番匠ジヤウの思ソラミヤウふて

おがしめうきして

いまののりふあし

かうよきまのまろ祓ハヒよあしひまめつらり

佐抄シヨセウの記キいれよきまの車クルマの心ココロりり志

うら車クルマの中ナカよねふとつり赤アカりや志

かたしきつらうちねあつまやまの車クルマ

よりりてめきとつひふらるる

まよにけりしきりねらうらみえ

そまに車クルマあつまろ祓ハヒうらさみ

ゆくと画ガク意イよ了シラセ第ダイ一イチの祠ニ

らぬののりうらにけりしてま

のくまをうりせむつらとあわ

あつらふまのたよきふら御ミのん

あつらふちあつらふら一ヒト宿ヤク寸

ふよよきまのり祓ハヒとつらんはり

たうひらまきわ

うらまのり

は惟ヒ寺テラ、貞信テイシン公キミ建タテき一ヒト宿ヤク意イ能ネ







上の祀りもろさあまきとまゐりくわい  
うーみえさう 斑女いさなのアキの廟ミヤはなりとて  
らまうま<sup>+</sup>と侍後もとまうてソウラて  
翠すいのいとのとのとのとのと  
この若き者ハコあつにやしのあもつあせは福やの目次  
こしとまゐりの奏りうきりしとまゐり  
うほよとるーにアキのミヤ

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*



















